

9 沖縄における 観光農園 推進検討会



コーヒー観光農園 金城代表

沖縄の観光産業は、外国人観光客の大幅な増加を背景として非常に好調に推移しており、平成33年度の観光収入1.1兆円、入域観光客数1、200万人などの目標達成に向け、沖縄県を中心に官民一体となつて観光推進施策に取り組んでいるところです。

一方、農林水産業は、観光客が沖縄の食を楽しむための食材提供の機能を有するほか、農業体験などが観光メニューの一つとして人気を集めるなど、沖縄の観光を振興する上でも重要な役割を担っています。

こうした状況を踏まえ、農林水産部では、観光農園による沖縄の農林水産業を一層成長させる方策などについて検討するため、11月7日(火)に市町村担当者などを対象とした検討会を開催しました。



観光農園ポスターなど



検討会の様子

が参加し、県内訪日客の入域数や消費額の推移などの沖縄観光の現状について説明があったほか、果樹や牧場、レストランなど様々な部門を一体的に行っている観光農園や、近年、沖縄でも人気が高まりつつあるイチゴやコーヒートの収穫体験を取り入れた観光農園などが紹介されました。

参加者からは、「行政、地域を巻き込んだネットワーク作りが必要」など多くの意見が寄せられました。

農林水産部農政課

☎098-866-11627

10 農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞伝達式 ～博愛の里上野(宮古島市)～

当部では11月17日(金)に、「平成29年度農林水産祭むらづくり部門農林水産大臣賞伝達式」を行いました。農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施されています。

そのうち、豊かなむらづくり全国表彰事業(むらづくり部門)は、農林水産業の振興を中心に、生活、文化などを幅広く地域活動を展開し、地域の活性化を図る優良事例の表彰を通じて、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的としています。

本年度は、北海道・沖縄ブロックから推薦した「博愛の里上野」が農林水産大臣賞を受賞しました。

「博愛の里上野」は、1873年(明治6年)、宮古島の上野宮国沖で座礁したドイツ商船ロベルトソン号の乗組員を地域の人々が救助した歴史的背景を受けて、先人の博愛の精神を受け継ぎ、伝統芸能や伝統行事を大切に守り続けてきた地域です。

当地域は、ゴーヤーやとうがんなどの拠点産地の認定を受けるなど農業・生産の盛んな地域で、創意工夫を重ねて過疎化を食い止めるなど、「博愛の



農林水産大臣賞伝達式の様子

里上野地域づくり協議会」が中心となり、各団体と連携を図りながら、積極的に地域のむらづくりを推進しています。

その取組は、地域の活性化に大きく貢献し、他の地域のむらづくり活動の模範であることから、今回の農林水産大臣賞の受賞となりました。

伝達式では、農林水産大臣賞が能登局長から同協議会会長へ手渡され、その後の意見交換では先人たちの取組に感謝するとともに、今後ともむらづくりに取り組んで行くことが述べられました。

今回の受賞を契機に、「博愛の里上野」をはじめ、県内全域で地域活性化の気運が高まり、沖縄の農林水産業がさらに力強く発展していくことを期待します。

農林水産部農村振興課農村活性化推進室

☎098-866-11652